

協会だより



一般社団法人 関東地域づくり協会

3 新年のごあいさつ

4 午年 年男、今年もよろしくお願ひします。

6 関東地域づくり協会からのお知らせ

第38回 道のある風景写真コンクール

8 公益助成事業の紹介

酸性地下水に長期間曝された三国トンネル覆工コンクリートの劣化調査

10 プロジェクトK55

街づくりと一体整備!
埼玉県東部の縦の幹線道路を造る
東埼玉道路

14 関東の宿場町⑯

中山道 松井田宿 群馬県

16 関東の土木遺産⑯

六郷水門 東京都

18 新会員よりひとこと

シャッターの向こうに、現場の息づかいを／新たな環境でリスタート、出会いを大事に／
地域の野球チームで子供たちの育成に励む／趣味の山登りで今後も健康維持を

19 会員情報

新会員紹介・お悔やみ
編集委員会だより

20 ピックアップ 関東の「道の駅」⑬

東日本大震災の経験から、
ハード面・ソフト面を強化

道の駅「富楽里とみやま」



表紙の言葉

笠井あづみさん（甲府市立甲府商業高等学校3年生（受賞時））

春をかける橋

この写真は、当協会が主催する第38回「道のある風景写真コンクール」で高等学校の部銀賞に選ばれた甲府市立甲府商業高等学校の笠井あづみさんの作品です。

「この作品は桜の向こうに走るループ橋を妹と撮影しに行ったものです。中学生の時は毎回入賞していたコンテストでしたが、高校生になりこのコンテストの受賞の難しさを痛感しました。高校最後に納得のいく賞を受賞することができてとてもうれしかったです」

理事長あいさつ

新年のごあいさつ

(一社) 関東地域づくり協会 理事長
深澤淳志



令和8年の年頭に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

会員の皆さまにおかれましては、平素より当協会事業へのご理解とご支援をいただいておりますこと、心より感謝と御礼を申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

昨年は戦後80年。歴史は約80年周期で大転換期を迎えると言われているように、さまざまな出来事がありました。今から80年前は戦後復興の始まりであり、そのさらに80年前は幕末・明治維新の激動期でした。

トランプ大統領による関税要求は、これまで築き上げてきた世界の自由貿易体制を大きく揺るがし、また、ウクライナ戦争の長期化や各地での紛争増加に対する国連の機能低下は著しく、加えて、台湾をめぐる昨今の状況は、わが国の安全保障上大きな課題となっています。

国際情勢の不安定さに加え、国内では「国土強靭化待ったなし」です。

昨年も各地で地震が頻発しました。巨大地震発生リスクの高まりに加え、線状降水帯による集中豪雨など、降雨のあり方が集中化・激甚化しています。一方、1月には、埼玉県八潮市で大規模な道路陥没事故が発生したように、インフラ老朽化対策は新たなフェーズに入りました。

このような状況下、6月には国土強靭化基本法に基づき、事業規模を今後5年間で概ね20兆円強程度とする「第1次国土強靭化実施中期計画」が策定されました。

7月の参議院議員選挙では、国土強靭化施策推進の強力なリーダー、佐藤信秋議員のご後継として、また、一昨年末ご逝去された足立敏之議員のご遺志を引き継がれた当協会の会員、見坂茂範さんが見事初当選を果たされました。

10月には、新しい連立枠組みのもと、「日本列島を強く豊かに」を掲げる高市首相による新たな政権が誕生し、11月末に取りまとめられた「『強い経済』を実現する総合経済対策」の中では、「令和の国土強靭化の実現」が重要施策として位置づけられ、12月の臨時国会において、「第1次国土強靭化実施中期計画」の初年度分として総額約3.1兆円の補正予算が計上されました。

関東地域づくり協会は、平成25年4月の設立以来、今年の4月で14年目を迎えます。協会の使命は、関東地方整備局経験者を主体とする会員の皆さんのご支援、ご協力のもと、安心して、いきいきと暮らせる関東地域の基盤づくりのお手伝いを行うことです。

当協会は、①地域活性化、②防災、③環境保全、④調査研究および技術開発、⑤講演会等、⑥広報の6つの柱を中心とした公益事業を展開しています。また、協会の持つ技術・ノウハウを活かし、インフラ整備事業等の進捗管理や関係機関との調整を行う事業監理業務、公共事業の品質を確保するための第三者品質証明事業などを進めています。昨年は、埼玉県からの要請のもと道路陥没事故復旧工事にかかる事業監理業務の一部もお手伝いいたしました。

防災エキスパートの方々には、定期点検や講習会への参加などを通じて防災技術の研鑽や防災技術の伝承にご尽力いただいています。また、国土交通省が今年度募集したテックフォース予備隊員に、防災エキスパートの有志の方にもご登録いただきました。

会員有志で組織する「関東技術継承研究会」は、後輩技術者への技術継承活動を精力的に展開しており、昨年は第2弾として現役時代の貴重な経験を凝縮した「災害発生時の対応事例集」を取りまとめました。今後、後輩、特に若手技術者への技術継承の一助として、大いに活用されることを期待しています。

今年の干支は「丙午」です。情熱と行動力に満ち、大きな変革や成長のチャンスに恵まれる年とされています。

国土の基盤づくりを通じて関東を良くし、幸せな社会を実現しようという誇り高き会員の皆さまの志を実現すべく、私たちも関係する全ての皆さま方との連携を一層深めつつ、共通の目的、目標のもと、熱意と行動力をもって新しいことへチャレンジするとともに、業務の一層の効率化、技術の研鑽、人材の確保・育成に努めます。また、会員サービスの向上とあわせ、防災エキスパートを始めとする会員の皆さんのが活躍の場を更に提供してまいりたいと考えています。

昨年の米国大リーグでの日本人選手の活躍には心が躍りました。3年連続で4回目のMVPに輝いた「二刀流」の大谷翔平選手、そして、ワールドシリーズで3勝を挙げMVPに輝いた山本由伸投手。特に、献身的な連投の末に優勝投手となった山本由伸投手の姿は、われわれに大きな感動を与えてくれました。これこそ「全員野球」の神髄だと思った次第です。

私たちも「全員野球」の精神にのっとり、これからも会員の皆さまのご協力のもと、関東地域の地域づくりのお役に立てるよう取り組みを進めてまいります。

今年一年が平和で、皆さまにとって、明るく笑顔あふれる素晴らしい年となることを祈念し、新年のごあいさつをいたします。

令和8
(2026)年

午

この頃、思うこと

昭和29(1954)年生まれ

田村俊彦さん

(株)長大
元 企画部広域計画課長

あけましておめでとうございます。

ここ数年、老人力が身についてきたと思う。

一日が早い、一年が早い、

味覚・嗅覚が鈍くなった。不整脈（心房細動）と20年、睡眠時無呼吸症候群と4年、昨年は右肩腱板断裂と、新たな荷物が増えていく。

1年前から週に4日勤務、1日は時々医者通いの生活。iPhoneにiPad、パソコンは言うことを聞いてくれない。そのくせ、お節介な機能を勝手に次々と繰り出してくる。フィッティングメールも次々やって来る。大手の会社を騙って配当金があります、24時間以内にこのURLで手続きしてください、と。数え上げればきりがない。

先日、かみさんとKKRの終活セミナーに行ってきた。もしもの時に残された家族が困らないよう、エンディングノートで意思表示しておくことが大事と教えられた。

この世に生まれて両親に面倒を見てもらい、成長とともに友達・先輩・先生・上司に面倒を見てもらい、感謝。気付いたら先輩・上司は少なくなり、いずれ自分の番か……。

昭和48年に群馬の高校を卒業し関東地方建設局に採用され、腰椎椎間板ヘルニア、交通もらい事故、十二指腸潰瘍、不整脈（心房細動）など不調の時期もあったが、かみさんの支えもあって41年間勤めることができた。

平成26年から長大に勤務し、行政経験を踏まえて社内で業務レビューなどを行っているが、モノをつくるから維持管理・有効活用へ、情報化・自動化へと目まぐるしく変化する中で、働き方も変わってきたと感じる。

6回目の午年を迎え、ますます老人力が身についていくが、ケセラセラで楽しく毎日を過ごしていきたいと思う。

最後に、皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。



年
年男、
今年もよろしく
お願いします。

6回目の干支

昭和29(1954)年生まれ

富岡秀顯さん

(株)オリエンタルコンサルタンツ
元 河川情報管理官



2024年の男性の平均寿命は81歳だそうですが、今年はとうとう6回目の干支の歳になるので、寿命はあと9年?! 私のこれまで信じてきた人生時間というのは、年齢÷3=人生時間（24時間）だから、72歳が24時ということになるので、時計的にはもう寝る時間ですが、まだ平均寿命までは9年あると考えることができます。う~ん、長いか短いか! しかし、渋沢栄一によれば「四十、五十は湧き小僧、六十、七十は働き盛り、九十になって迎えが来たら、百まで待てと追い返せ」との名言もあるので、渋沢栄一の下で働いたら大変だとは思うけれど、もう少し頑張ろうと考えている今日この頃です。

役所人生では、河川総合開発事業（ダムがほとんど）に携わることが多かったのですが、その中で覚えている名言（私的には）とご指導をいくつかご紹介します。

宮ヶ瀬ダムのとき、作成した記録映画の中に、地元の女性の「私は自分が下流の水を必要としている人たちのために水没して移転するということに納得できなかったけど、ある人に言われた“人類愛”という言葉で最後に納得することができた」という言葉があつて思わず涙したこと。

八ッ場ダムでは、ダム反対派の委員長から町長になつた人物と話をしたとき、「八ッ場思えば照る日も曇る！」と、すでに引退していたその人が「私の辞世の句」だとおっしゃっていたこと。

その後任の町長さんは、それまでのダム推進のギアがロギアだとすれば、ギアがいきなりトップギアになったように迷いなく進めた方であったが、「説明資料というのは、ばらばらと配るのでなく目次をつけて1冊にまとめて、大きい文字の資料としろ!」と、地元のご老人のことや資料が分散しないよう配慮することを指導されたこと。

最近は足腰が弱ったけれど、学びの心を持って、ゆっくり進む馬車馬の午年として6回目の干支を充実した年にしたいと祈ります。

承前啓後を大切に

昭和41年(1966年)生まれ

畦地拓也さん

(一社)関東地域づくり協会
元 特定道路工事対策官

あけましておめでとうございます。

私は、1966年(昭和41年)
前回の丙午生まれで今年60
歳還暦を迎えます。



《1966年(昭和41年)丙午生まれのメリットはどうだったのか?》

前回、1966年(昭和41年)の丙午の年には、総務省の資料によれば、江戸時代の迷信の影響で出生数が大きく落ち込みました。同年の出生数は約136万人で、前年の約182万人より約46万人の減少となっています。子供の数が25%以上少ないのです。その頃の親たちは、受験のときの志願倍率もその分だけ低くなるなどとポジティブなことを言っていました。しかしながら私は、都市部(横浜)育ちだったこともあり、受験についても、巷で言っていた学級数が1クラス少ないとか? 女子が少ないとか? レギュラーになれたとか? ということは、まったく皆無がありました。今年の丙午生まれの方々も、少子化の現代では、そういった恩恵はないだろうと考えます。

《実体験を踏まえ、2026年丙午に向けて》

日頃の生活に関わるインフレ社会情勢や関税問題等では、昭和末期から平成初期のバブリーな社会や日米貿易摩擦を思い起こします。今に始まったことではないことを念頭に、過去からの伝えを大切にし、その時はどうしたのかをよく考え、新しい知識を得ることができるよう生活してまいりたいと考えております。

常に前進する午年!

昭和41年(1966年)生まれ

内堀寿美男さん

(一財)日本建設情報総合センター
元 河川調査官

新年あけましておめでとうございます。

昭和41年丙午の年に長野県の自然豊かな村で産声をあげ、昭和60年4月に利根川上流工事事務所に配属され、昭和～平成～令和と河川関係のお仕事のみ、勤務した事務所は利根川水系のみという大変ありがたい環境のもと、40年と1ヶ月を過ごさせていただき、昨年5月に早期退職し、8月から一般財団法人日本建設情報総合センター(JACIC)に勤務しております。

さまざまなことがあった公務員生活でしたが、これまで無事に過ごせたのも、ひとえに先輩・同僚・後輩の皆さま方のおかげだと心より感謝いたします、本当にありがとうございました。

令和8年は60年に一度の丙午の年。ということは、私は「還暦(60歳)」ということになるそうで、改めて歳を取ったと痛感しております。

よく「歳を取るにつれて、時間の流れが速く感じる」といわれます。時間の流れは歳と比例するともいわれ、10歳は速さ10で進み、20歳は速さ20で進む、ということは60歳では10歳の6倍、20歳の3倍の速さで時間が流れるようで本当にそう感じるものだと実感しておりますが、これからも歳を重ねていくごとに、速くなる一日一日を有意義に、新たなことにチャレンジする楽しさも忘れて過ごしていきたいと思います。

午(馬)は本来、常に前進する生き物です。後ろを振り返らず前に進む、夢に向かって突き進む午年が、皆さんにとりましても素敵なお年でありますようにお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



『鬼滅の刃』の聖地巡礼「竜の割石」



第38回 道のある風景写真コンクール

私たちの生活に欠くことのできない道。小中高校生を対象とした「道のある風景写真コンクール」は今回で38回目を迎えました。

今回も日常生活での写真、動物とのふれあいの写真、工夫して撮影した写真など、さまざまな一瞬を切り取った「道」のある風景の写真を2,323作

品ご応募いただきました。

10月22日に審査会が開催され、写真家の加藤雅昭先生、太田真三先生、当協会の武藤聰専務理事の3名により入賞作品が決定しました。

入賞作品は「道の駅いちかわ」など、3カ所で展示を予定しています。



主催：(一社)関東地域づくり協会／協力：国土交通省関東地方整備局

金賞



高等学校の部

「夏の交差点」

武隈例號 (たけくま りく) さん
群馬県立伊勢崎工業高等学校1年生

小学校の部

「きれいなさくら」

茅場晴輝 (かやば はるき) さん 水戸市立内原小学校2年生



学校賞

小学校 神奈川県 横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校
中学校 千葉県 松戸市立第五中学校
高等学校 東京都 工学院大学附属高等学校

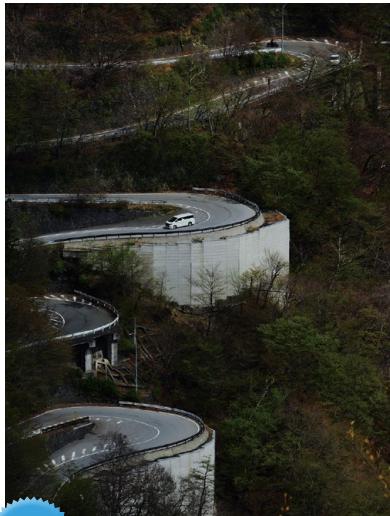
中学校の部

「空が見えるトンネル」

花田琶子 (はなだ わこ) さん 松戸市立第五中学校1年生



銀賞



高等学校の部
「山腹の白蛇」
高橋磨生 (たかはし まお) さん
工学院大学附属高等学校 2年生



小学校の部
「287段の先は」
笠井いすみ (かさい いすみ) さん
市川三郷町立六郷小学校 3年生



小学校の部
「重たいな」
根岸朔都 (ねぎし さくと) さん
さいたま市立三室小学校 3年生

高等学校の部

「春をかける橋」
笠井あずみ (かさい あずみ) さん
甲府市立甲府商業高等学校 3年生



中学校の部
「潮の匂い」
薛瑾橙 (せつ きんとう) さん
瀧野川女子学園中学校 3年生



中学校の部
「東京を照らす光跡」
矢嶋寛太 (やじま ひろた) さん
川崎市立稻田中学校 3年生

銅賞

小学校の部

「千年続く竹の道」	富高英怜奈さん (とみたか えれな)	横浜国立大学教育学部附属 鎌倉小学校 4年生
「キリンさん、 ここまでおいで～」	沢目史奈さん (さわめ ふみな)	星美学園小学校 1年生
「この道の先は...」	若林紘加さん (わかばやし ひろか)	横浜国立大学教育学部附属 鎌倉小学校 6年生
「森の中でリラックス」	北村菜穂さん (きたむら なほ)	平塚市立なでしこ小学校 5年生
「お散歩ルンルン」	武石怜実さん (たけいし れみ)	茨城大学教育学部附属小学校 3年生

中学校の部

「夕やけ」	川崎心葉さん (かわさき このは)	駿台甲府中学校 3年生
「兄弟2人で歩む道」	所空さん (ところ そら)	松戸市立第五中学校 1年生

高等学校の部

「トンネルに染み付く、 青い影」	青木詩桜さん (あおき しお)	松戸市立第五中学校 1年生
「桜の下で散歩」	大久保敦絆さん (おおくぼ あつき)	八千代町立八千代第一中学校 3年生
「山車」	鈴木輝久浩さん (すずき きくひろ)	茨城県立水戸第一高等学校 1年生
「夜道の王冠」	小林惺翔さん (こばやし せいが)	埼玉県立大宮工業高等学校 2年生
「蓮の散歩道」	康広翔さん (こう ひろと)	埼玉県立進修館高等学校 2年生
「けもの道」	中嶋康成さん (なかじま こうせい)	工学院大学附属高等学校 1年生
「雨夜の灯籠街」	鈴木朗人さん (すずき あきと)	工学院大学附属高等学校 2年生

酸性地下水に長期間曝された三国トンネル覆工コンクリートの劣化調査

前橋工科大学環境・デザイン領域土木・環境プログラム

准教授 舌間孝一郎

1. はじめに

群馬・新潟県境の三国峠は、関東と日本海側を結ぶ交通の要衝です。そこでは、2022年に新トンネルが完成するまで、70年近くもの間、三国トンネルが供用されてきました（写真1）。関東圏にお住まいの方には、スキーや温泉などで三国トンネルを通過したことがある方も多いでしょう。われわれは、国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所の協力を得て、廃坑となった三国トンネルのコンクリートの調査をする機会に恵まれました。

トンネルは、地山を円弧上に掘削した後に、コンクリートで覆って内部空間を守ります。これにより地山からの力を受け止めたり、落石を防止したりしているわけです。このコンクリートを「^{あつこう}覆工コンクリート」といいます。ここにコンクリートが使われるのは、コンクリートが過酷な自然環境でも長持ちする高耐久材料だからです。「傷んだらすぐ造り直し」とはいかない重要インフラ構造物にコンクリートが使われるのはそのためです。

しかし、このコンクリートも、長い期間に少しづつ性能は低下していきます。コンクリートを劣化させる物質は自然界にたくさん存在し、それらは水や空気を介してコンクリートに少しづつ侵入するからです。ですので、インフラ構造物の管理者は、維持管理業務を絶えず行っていく必要があるわけです。

さて、コンクリートにとって三国トンネルは過酷な環境です。それは、この地域の岩盤には硫黄鉱床があり、そ

れが溶け込んだ強酸性の地下水が岩盤中に大量に存在するからです。これにより「硫酸塩劣化」の発生が疑われます。これがコンクリート内に配置された鉄筋を腐食から守る源であるアルカリを失わせたり、コンクリート組織を膨張させて内部から破壊したりしていると考えられるのです。そのため、トンネル管理者である国土交通省は、建設当初より覆工コンクリートの劣化対策に苦心してきました。1968年には、当初の覆工コンクリートの内側（車道側）に厚さ250mmの覆工コンクリートを新たに付け加える特殊かつ大規模な補修・補強工事を行っています（写真2）。

2. 劣化した覆工コンクリートのサンプリング

われわれは、2023年秋に三国トンネルの覆工コンクリートのサンプリング（コンクリートコアの抜き取り）を行いました（写真3）。調査目的は、コンクリートの劣化メカニズムの判別と新旧覆工コンクリートの重層化の効果検証です。

コアのサンプリングは、2008～2009年に国土交通省が行ったコンクリートの中性化調査結果（コンクリートのアルカリがどのくらい抜けているかを示す代表的な劣化指標）を参考に4箇所に絞りました。トンネルの場所によって周囲の岩盤も地下水の性質も異なりますから、コンクリートの劣化速度にも差が出るわけです。この試験結果から、群馬側坑口に近い劣化が遅い場所（写真4・B1）、トンネル中央に近い劣化が早い場所（同・B2とB3）、群馬坑口すぐ近く（同・B0）です。B0は酸性地下水の影響が非常に小



群馬側から撮影した三国トンネル（左：新設された（新）三国トンネル、右：今回調査した（旧）三国トンネル）



写真2
供用が終った（旧）三国トンネルの内部
(新覆工コンクリートが見える)



コア供試体の採取の様子
(コアマシンによるボーリング作業)

写真3

さいと思われる場所として選定しています。

各場所で抜き取ったコア供試体の写真を示します(写真4)。左端が車道側(写真2で見えている部分)、新覆工コンクリート、新旧境界の付着モルタル、旧覆工コンクリートと並び、右端が地山の岩盤との接触部です。なお、写真ではわかりにくいのですが、付着モルタルと旧覆工コンクリートの間には、新覆工コンクリートを酸性地下水の影響から切り離すため、防水ゴムシートが配置されています。コア供試体を観察すると、旧コンクリートは地山を掘削した岩盤の破片(ガラ)をコンクリートに混ぜているようです。70年前の荒々しい施工がうかがえます。一方で、新コンクリートは一般的な生コンクリートです。時代によりコンクリートは随分変わります。

3. 調査結果とまとめ

前述のように、三国トンネルでは硫黄鉱床由来の硫酸塩劣化が疑われます。そこで、覆工コンクリート中に蓄積した硫黄含有量を調べてみました(図1)。旧覆工コンクリートでは、劣化速度の速いB2の硫黄含有量がB0に比べて大きくなっています。やはり硫酸塩劣化の可能性大です。この劣化の特徴である膨張性の内部ひび割れに鋭敏に反応する超音波試験を用いて劣化状況を調べてみました。コンクリート表面に発信端子と受信端子を当てて、超音波がコンクリート中を伝搬する速度を測ります(写真5)。この結果から、酸性地下水の新旧覆工コンクリート内での動きなどもわかりそうです。

試験の結果、旧覆工コンクリートでは、劣化は地山側と車道側の両サイドから進行しているようです(図2)。そもそも酸性地下水が供給されるのは地山側ですから、防水ゴムシートと新覆工コンクリートを付け足したことでの状況が変化したのでしょうか。また、新覆工コンクリートの奥側(ゴムシート側)を見てみると、硫黄含有量はB0と

B2で変わりませんでした。酸性地下水は、防水ゴムシートを突破して新覆工コンクリートにも供給されていること、その地下水の硫黄含有量は場所による差が消えていました。つまり、防水ゴムシートと新覆工コンクリートを付け足したことで、旧覆工コンクリートのひび割れ部から流れ出た酸性地下水が新旧覆工コンクリートの境界のゴムシート沿いの隙間を伝ってトンネル全域に行き渡っていたのかもしれません。坑口であるB0にもトンネル奥の硫黄成分が回ってきていたようです。

しかし、結果として、補修は「効果あり」だったと評価すべきです。新覆工コンクリートの劣化はそれほど進んでいないようなので、防水ゴムシートの効果は期待していたよりも小さかったかもしれません。新覆工コンクリートの品質が十分に高かったことはうかがえます。コンクリートは複雑でナイーブな材料ですから、材料は同じでも配合や施工で耐久性能は大きく変わります。トンネルが建設された1958年と大規模補修工事が行われた1968年では、施工環境も技術者の意識も随分変わったのかもしれません。適切な品質管理の重要性を考えさせられました。

最後に、本調査をサポートしていただいた、関東地域づくり協会の皆さま、国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所の皆さま、調査に協力いただいた関係者の皆さまに感謝申し上げます。また、常日頃より社会資本の維持管理に携われている施設管理者の努力に敬意を表します。土木構造物は地域づくりや街づくりを支え続けます。読者の皆さまには土木工学への関心をいただけると幸いです。

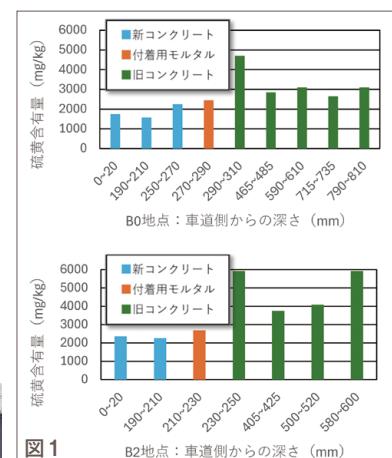


図1 トンネル内の新旧覆工コンクリート中の硫黄含有量

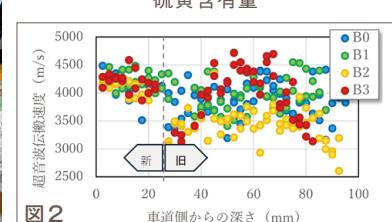


図2 トンネル内の新旧覆工コンクリートの超音波伝搬速度



写真4 トンネル内4箇所から採取したコア供試体(計11本)



コア供試体の超音波試験の様子
(場所を変えながら深さ方向別にデータを取っています)

街づくりと一体整備! 埼玉県東部の 縦の幹線道路を造る

東埼玉道路



JR武蔵野線の高架下を通る東埼玉道路（一般部）。新しい街の動脈となり、沿線にはショッピングモールや大型集合住宅が立ち並ぶ

会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、苦労や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。第55回は、東埼玉道路事業に携わった関登男さん、佐野勇さん、鹿角豊さんにお話を伺いました。

関 登男さん

昭和40(1965)年入省、北首都国道事務所長を務め、平成15(2003)年に退職。



佐野 勇さん

昭和41(1966)年入省、北首都国道事務所副所長を務め、平成15(2003)年に退職。



鹿角 豊さん

大成ロック株式会社営業本部公共営業部理事。昭和53(1978)年入省、大宮国道事務所長を務め、平成30(2018)年に退職。

①平成15(2003)年頃、建設中の東埼玉道路。画面を横切っている東京外かく環状道路(外環道)との交差点が起点となっている。ここから北へ5.7kmが平成11年に着工した区間。高架構造の自動車専用部は現在も事業中であり、その両サイドを走る一般部は平成16年度に開通した(北首都国道事務所工事資料より)



②資料を手に当時を振り返る関さん

③路線図を前に東埼玉道路について語る鹿角さん(左)、佐野さん(右)

外環道、圏央道に力を尽くしながら 地域の要望にも応える

埼玉県東部地域において、南北方向の幹線道路は長らく国道4号のみだった。これが慢性的な渋滞に陥っていたことから新たな幹線道路として計画されたのが東埼玉道路だ。

東埼玉道路は、埼玉県八潮市(東京外かく環状道路との交差部)を起点に、埼玉県春日部市の国道16号に至る延長約17.6kmの道路である。自動車専用部と一般部(国道4号バイパス)が併設する構造として昭和63(1988)年に都市計画決定され、平成元(1989)年に4.2km、平成9年に1.5kmが事業着手。本格的に動き始めたのは平成11年10月の改良工事の着手からだった。

関登男さんは平成13年1月に事務所長として、佐野勇さんは平成13年4月に副所長として、北首都国道事務所に着任した(ともに平成15年3月まで)。鹿角豊さんは平成14年4月から平成16年3月まで工務課長を務めた。同時期に、東埼玉道路事業に携わった3人である。

「東埼玉道路の位置は、国道4号と江戸川のちょうど中間あたり。埼玉県東部を縦に貫く道路は本当に脆弱で、地元

の人たちが使いやすい幹線的な道路は何もない状況でした。千葉県の野田方面に行く道もなく、地元からの“縦の幹線道路”に寄せる期待は大きかったと思います。実際に当時、東埼玉テクノポリス(埼玉県吉川市と北葛飾郡松伏町にまたがる工業団地)の造成が進んでおり、松伏町長から『なんとか早くお願いしたい』という声をいただいた記憶があります(関さん)

平成11年からの改良事業で目標とした供用時期は平成16年。秋に「埼玉国体」が開催されるため、会場となる越谷総合公園までのアクセス道路として、起点からの一般部5.7kmの区間を早期の開通に向け重点的に整備することになった。

しかし平成13年頃の北首都国道事務所では、東京外かく環状道路(外環道)の埼玉県三郷市以南(千葉県側)の施工をメインに、事業が開始したばかりの首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の用地買収を進めていく段階。特に外環道は事業の最盛期であり、この2つの事業に予算も人手も多くの割かれていた。

「どうしても主力は外環道や圏央道で、東埼玉道路に限っては、やれとは言われているけれどもそんなに予算もついてこない。非常に忙しい時期で、職員としてはやりづらいとこ

④調整池にかかる越谷レイクタウン橋は水が入っていない状態で建設



4

⑤軟弱地盤の土地のため、取り付け部の施工に苦労したという



5



6

⑥令和4(2022)年3月頃のレイクタウン。東埼玉道路建設当時はまだ更地だったが、見違えるほどの街が形成された
(北首都国道事務所資料より)



7

⑦外環道からほど近い、そうか公園の水路も、一般部建設時に整備。自然の風合いを残すため玉石詰めの蛇籠積で施工

8



るもあったのではないかと思います。できることを肅々とやつていくしかない状況でしたね」(関さん)

調整や発注に携わった佐野さん、鹿角さんは「5年で供用というのはタイトなスケジュールでした」と当時を振り返る。

「新たな街づくり」と共に進んだ 東埼玉道路建設

東埼玉道路事業とほぼ同時期に開始したのが、沿線にあたる地域での、都市基盤整備公団(当時)を施行者とする「越谷レイクタウン特定土地区画整理事業」だ。中川や元荒川などの河川が流れる低湿地帯に調節池を建設するとともに、土地区画整理による市街地整備を一体的に行う事業である。JR武蔵野線の新駅設置と連続立体化も同時に進められることになり、越谷市東部のこの地域一帯が新たな街づくりのために大きく動き始めた。

東埼玉道路は、それらの関連事業と互いに調整しながら進めることになったのである。

とはいえ、平成13年、14年頃は「新しい街(レイクタウン)ができるという話だけで、形はまだ一切、何もなかった」と佐野さんは言う。

「今の形になる前の小さい調整池があるくらいで、辺りは完全に野原。ほとんど建物もありませんでした。そのような中で東埼玉道路は、外環道以北の用地買収を中心に取り付け道路や側道の改良工事を進めているところで、いよいよ本格的に道路建設という段階。着任時に、既に新元荒川橋の

下部工などは出来始めていたことを覚えています。なにしろ供用まで時間がありませんから、コントロールポイントになる河川上の橋梁やレイクタウン地区の橋梁など、時間がかかる部分を早々に進めなければなりません。用地取得と並行して構造物から施工を始めました」(佐野さん)

鹿角さんが着任した頃も、用地はだいたい8、9割ぐらいで、まだ取得できていないところもあった。

「買えそうもない場所については、残したまま開通しようとすることになっていましたね。あれから20年以上たちますが、つい最近まで買えずに残っていた箇所もあったと思います」(鹿角さん)

「用地取得の進捗状況を見ながらの工事でしたから、当時は用地課、調査課、工務課の調整会議を事務所内でよくやっていました」(佐野さん)

所内だけでなく外部との調整にも奔走した。埼玉県やJR、レイクタウン事業などの関係者と、予算や工事の工程などについて、さまざまな協議が必要だったのだ。

「JRとは武蔵野線連続立体事業により、高架化の工事をいつから始めるか、年度ごとの予算をどうするか、というような協議をした記憶があります」(佐野さん)

「線路が高架にならないと、東埼玉道路は開通できません。浦和にあったJRの事務所に何度も赴いて、高架化の工事を協力し早く進めてくれるようお願いしました」(鹿角さん)

施工において気を使ったのは、軟弱地盤での構造物の工事だ。道路が通るレイクタウン辺りは河川に挟まれた低



⑩

⑨平成13年頃の、新元荒川橋下部工工事の様子
(北首都国道事務所内報「ほくと」No.150より)

⑫一般部の延伸事業は続いており、
令和7年に約3.8kmが新たに開通

⑨



⑪5.7kmの最後の300mほどは、土壤から
ダイオキシンが検出されたこともあり、平
成17年3月の開通になった



⑬令和7年の開通箇所を訪れた関さん
(編集委員と共に)。開通後見る
のは初めてだ

⑬



湿地帯なのである。

「平坦な道路なら問題はありませんし、橋梁自体も基礎の杭をしっかりと打てばよいのですが、アプローチ(橋の取り付け部)は盛土構造になります。盛土するとどうしても土圧がかかって沈下してしまうので地盤改良は必須。かなりの時間と費用がかかりました」(鹿角さん)

佐野さんが任期中の出来事でよく覚えているのは、平成14年秋頃のこと。事業区間の終点にあたる地区が廃棄物処分場跡地だったことから、工事に先立ち土壤の試料採取をしたところ、ダイオキシンが検出されたのだ。

「直ちに人体に被害を及ぼす値ではありませんでしたが、地盤を掘り返すなどの施工には注意をします。整備局に相談したところ『すぐに対策のための委員会を』ということで、早々に決めないと供用時期に間に合わないことから、専門知識を有する学識経験者および研究者と県や市の担当者で組織する技術検討委員会を数カ月で立ち上げ対策工法を検討しました。平成14年度末に委員会を開催しそこで現地盤を掘削しない施工方法とし、十分な盛土厚を確保する対策工法を決定しました。私は施工まで見ることはできませんでしたが、非常に大変だったと思います」(佐野さん)

平成16年10月には、ダイオキシンが検出された終点部分は避けて事業区間のうち5.4kmが供用。残っていた300mは平成17年3月に完成し、外環道からレイクタウンを経て北上する縦の幹線道路が暫定的に開通したのである。

新たな街の動脈となり、 物流をも支える道路ができた

鹿角さんは平成22年4月から平成25年の3月まで事務所長として再び北首都国道事務所に着任。東埼玉道路は最初の事業区間以北の延伸事業に着手していた。

「この延伸部は、最初の事業区間とは考え方も進め方もまったく違うものになりました。自動車専用部のための用地取得は行わず一般部のみの事業化であったため、どのように造るのかを含めていろいろ検討することになったのです」(鹿角さん)

延伸部の事業は現在も続いているが、このうち3.8kmは、令和7年6月に開通している。

東埼玉道路の開通により、沿線には大型集合住宅や商業施設が数多く立ち並ぶようになった。外環道との往来はスムーズで、大型の輸送トラックも次から次へとやってくる。千葉県や都心方面へのアクセスが向上したことで、沿線には物流の拠点や工業団地が続々と開業している。

東埼玉道路は、広域幹線道路ネットワークの一端を担うものとして期待されている。自動車専用部も、一般部の延伸も形をなすのはまだこれからだが、将来的には南部の外環道と北部の国道16号を結び、圏央道とも接続、東北自動車道や常磐自動車道にもつながる。

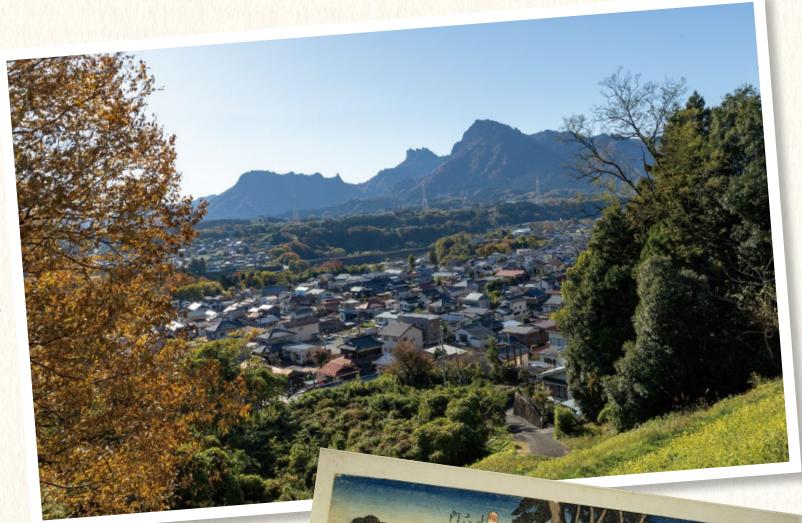
埼玉県東部地域のさらなる発展に寄与する道路として真価を發揮する日が待ち望まれている。

奇景の麓に栄えた「米宿」、 松井田宿

江戸時代、東海道などの街道に設けられたのが宿場です。
旅人を迎える宿場の古今の様子を関東地方の各地に訪ねるシリーズ。
第19回は中山道16番目の宿、松井田宿です。



モダンなデザインが特徴の
松井田町商工会館



歌川広重
『木曾海道六拾九次之内松井田』
(出典: 国立国会図書館
デジタルコレクション)



上州南西部、築城の歴史

松井田宿は現在の群馬県安中市にある、江戸と京都を結ぶ中山道第16番目の宿場です。町からは、日本三大奇景としても知られる妙義山を望むことができます。

かつて松井田はいくつかの城とともに栄えた城下町でした。伝説によれば鎌倉時代、諸国を巡歴していた北条時頼が、この地で「竜が雲の上に浮かぶが如き風景」を見て築城を命じ、弘長2(1262)年に「青竜山霞ヶ城」と呼ばれる城が築かれたといわれています。

後の時代になると長享元(1487)年に、安中氏が松井田城に入城します。その後、武田信玄の支配に下るなど何度も城主を変えた松井田城は、天正10(1582)年に入城した北条家家臣、大道寺駿河守政繁によって大幅に拡張されます。尾根を生かし、南北1.5km、東西1kmに広がった大きな城は、地形も相まり非常に堅牢でした。

時代は流れ慶長8(1603)年、徳川家康による江戸幕府の支配体制が始まりました。松井田宿の宿場としての町割りが出来上がったのは慶長13年とされています。宿の長さは6町16間、天保14(1843)年に編纂された『中山道宿村大概帳』によると江戸時代後期の松井田宿は、本陣2軒(金井家・松本家)、脇本陣2軒(徳右衛門家・安兵衛家)、旅籠14軒、家屋の数は252軒、

人口1,900人ほどの規模だったとされています。

関所に峠、待ち構える難所たち

「雨が降りやこそ松井田泊まり降らじやこしましょ坂本へ」。これは松井田宿とその次の宿場、坂本宿について歌われた馬子唄です。松井田宿は坂本宿に比べ宿泊客はさほど多くありませんでしたが、その理由は後の道中がありました。

両宿間には関所が設けられていました。この関所は碓氷関所と呼ばれ、同じく中山道の福島関所、東海道の箱根関所と並び、「入り鉄砲に出女」を厳しく取り締まる江戸防衛の最重要地点でした。さらに、関所での厳しい取り調べを終えた先には、中山道きっての難所といわれた碓氷峠が待ち構えていました。

碓氷峠は、古来から坂東と信濃国をつなぐ道として使われてきましたが、難所としても有名でした。740mあったとされる入口と峠頂部との標高差や、道中襲いかかる落石は、通行者にとつて大変な負担になりました。峠は明治時代にも太平洋側と日本海側を結ぶ要衝として、鉄道敷設の話が持ち上がりましたが、計画は難航。時代を経てもその険しさは健在でした。

そのような難所が控えていたため、多くの旅客は松井田宿に泊まらず、日のあるうちに関所を越えて、峠の入口である坂本宿で休息をとり、翌日以降の峠越えに備えようと考えたのです。



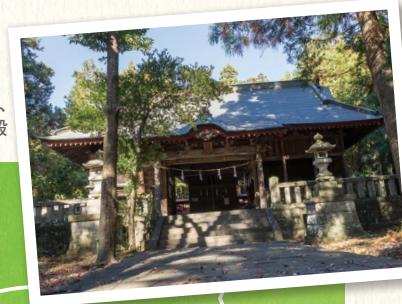
旧街道の面影を感じさせる辻中薬局(左)と脇本陣跡(右)



松井田の地名の由来にもなったといわれる不動寺



五料茶屋本陣お西(上)、お東(下)



県の指定重要文化財、
松井田八幡宮本殿



物資の中継地点、「米宿」としての発展

宿泊客は多くなかった松井田宿ですが、物資の流通拠点としては大いに栄えました。中でも米の取引は非常に盛んで、「米宿」の異名で呼ばれるほどでした。当時の松井田宿はその立地から、信州諸侯から江戸へ送る廻米や、余剰分を上州で売りさばくための払米が次々に運び込まれて一旦下ろされる、米の中継地点だったといわれています。宿には6軒の米問屋のほか、造酒家も9軒と他宿に比べて多く、独自の発展を見せました。

現在、松井田宿周辺には、本陣こそ残っていないものの、古くからの趣を感じさせる建造物が多く残っています。群馬県史跡の五料茶屋本陣もその一つです。茶屋本陣とは、本陣や脇本陣のような宿泊施設ではなく、休息所のような施設です。五料の茶屋本陣は2軒ありましたが、両家とも苗字が同じだったことから、それぞれ「お西」「お東」と呼ばれ区別されており、その姿はかつての風情を残したまま現在でも保存・公開されています。

「米宿」として独自の文化で栄えた松井田宿。都心から離れた急峻の麓には、どこか穏やかを感じさせる、静かな時間が流れています。

暴れ川の治水対策、求められた水門建設

六郷水門は、東京都大田区南六郷、多摩川の土手沿いにたたずむRC閘門です。

水門のある多摩川河口地域は、かねて水害の多い土地として知られていました。資料に残る、最も古い水害の記録は永禄3(1560)年にまでさかのぼります。近世以降も、新田開発の広がりや居住者の増加によって、洪水被害は毎年のように起こっていました。中でも明治40(1907)年、明治43年の台風による洪水の被害は甚大で、多摩川に面する東京・神奈川の両住民から、本格的な治水対策を求める声が高まりました。その声を受けた明治政府は、大正7(1918)年から昭和8(1933)年にかけて、大規模な多摩川改修工事に乗り出します。六郷水門の建設もその一環として実施されたものでした。

水門建設の主な目的は、地域を流れる六郷用水の末流や生活排水の処理と、多摩川増水時に用水路への逆流を防ぐためです。工事の費用としては国と東京府(当時)

からの補助金に加え、地元である旧六郷町の町費、耕地整理組合からの寄付などが使われました。旧六郷町当局および町民たちは、水門の施工を全面的に支援したとされており、水門の高欄には旧六郷町の町章(カタカナの「ロ」の字が9つ、郷の字の周りを取り囲むデザイン)があしらわれ、その功績を現代にも伝えています。

最新・現在でも希少な技術の投入

六郷水門の構造は、主に煉瓦造の基礎部分と鉄筋コンクリート造の上部から成り立っています。このうち、基礎部分の建設資材には「金森式鉄筋煉瓦」と呼ばれる、鉄筋で補強された煉瓦が使用されました。

金森式鉄筋煉瓦を発案したのは、当時、内務省技術官僚で多摩川改修事務所長を務めていた金森誠之です。金森は数多くの発明や特許を取得した河川土木工事の専門家でした。この鉄筋煉瓦は大正9(1920)年の印旛沼逆水門工事で初めて使用され、同時期に特許を取得しています。金森は六郷水門対面の川崎河港水門工事にも関わっており、多摩川改修工事の中心となる人物でした。

選奨土木遺産
六郷水門



関東の土木遺産 第56回

“表現派”デザインが特徴の
地域のランドマーク

六郷水門

東京都

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、
「日本の近代土木遺産」として発表しています。



それらの土木遺産の中
でも特に価値があると
される選奨土木遺産。

第56回は東京都大田
区にある六郷水門です。

水門開口部、シャイベ式の桁と
煉瓦造がうかがえる



水門橋梁部にも珍しい技術が使用されています。それは「シャイベ式変断面桁橋」と呼ばれる桁構造です。シャイベとはドイツ語で平面や平板を意味し、従来のアーチ建設などに使用される充腹構造ほど資材を必要としないシンプルな構造が特徴。水門では橋梁の桁部分に取り入れられました。桁は全体的に緩やかなアーチ曲線を描いており、デザインの優美さが演出されています。このシャイベ式を採用したアーチは国内では非常に数が少なく、六郷水門はその先駆的事例といえる、貴重な構造物でした。

ドイツ表現派の流れをくんだ 独特のデザイン

六郷水門は構造だけでなく、全体のデザインも非常に特徴的です。水門の塔屋はドーム状の頂部を持っており、全体的に丸みを帯びたフォルムになっています。この彫塑的・有機的なデザイン傾向は“表現派”と呼ばされました。表現派は、第一次世界大戦後のドイツを中心に巻き起こった芸術運動で、日本には大正初期に伝わり、若い世代の建築家に影響を与えたといわれています。大正期の

建築界ではRC造が新技術として確立されたこともあり、構造物の造形的可能性に大きな関心が集まっていました。表現派の彫塑的形態はまさにその象徴的な存在だったといえるでしょう。昭和初期に完成した六郷水門もまた、日本における表現派の流れをくんだ土木構造物でした。

現在では商業船の船溜まりや、川沿いの散策路の目印としても機能している六郷水門。地元の保護団体による保護活動も行われ、地域に愛される存在となっています。

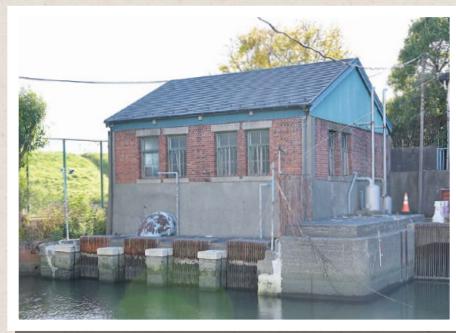
元大田区教育委員会文化財担当学芸員で、平成23(2011)年に六郷水門の文化財調査を担当した山本たか子さんは、水門を次のように評価します。

「昭和初期に造られた構造物が、大規模な改修工事をすることなく今もそのままの姿で残り続けていることは非常に価値を感じます。なんといってもデザインのかわいらしさは秀逸です。高欄のマークなどの意匠にも遊び心を感じますし、地域住民の暮らしに調和し愛される、ランドマーク的存在です」(山本さん)

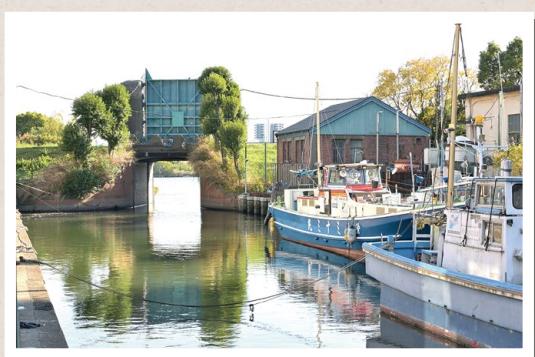
モダンな技術と表現の詰まった水門は、これからも川沿いから静かに地域の暮らしを見つめています。



道路側から、丸みを帯びた
フォルムがよくわかる



船溜まりには
商業船が浮かぶ



水門横に建設されている
排水処理場(六郷ポンプ所排水樋管)



サイクリングやランニングのコースとしても親しまれている

2025

新会員よりひとこと

今年度新たに新会員となられた4名の方から、現役時代の思い出や今後の抱負についてご投稿いただきました。

シャッターの向こうに、現場の息づかいを

通勤読書に励む近頃、浅田次郎調を少し心がけて本稿を綴ってみました。

* * *

レンズを通して見た景色ほど、私を揺さぶったものはない。

最初の赴任先は横浜国道の金沢国道出張所で、1984年に国道16号に並行する旧東横線高架下の壁画アートを撮影した経験が、私の“記録”的原点となった。あのさらついた空気と色彩は今も心に残っている。

2011年、東日本大震災の被災地に派遣され、押し流された橋桁の代わりに虚空へ向かって立つ橋脚や、荒涼とした地面に残された距離標を撮影した。沈む夕日、泥にまみれて立ち上がる人々の姿を前に、撮る一枚一枚が“祈り”的に思えた。

2014年には群馬県嬬恋村の橋梁で全国初の直轄診断を記録。国総研の玉越室長の動きを予測し、真実を伝える一瞬を待つ

中嶋政幸

(株)淺沼組 元 道路部道路保全企画官

てシャッターを切った。その写真が国総研のパンフレット表紙に採用されたとき、胸に小さな誇りが芽生えた。

迷いの多い日々の中で、長距離ランは思考を整える時間となり、走ることで糸がほどけるように答えが浮かぶ瞬間があつた。

今は空や山、機影を追う刻と旅車の風、遊空の操縦に向かいながら、新しい瞬間や人との出会いに心を開いていく。

人生、振り直しのきかない一枚を、今日も丁寧に焼きつけていきたい。



新たな環境でリスタート、出会いを大事に

私は、1989(平成元)年4月に建設省関東地方建設局下館工事事務所(現下館河川事務所)に勤務となり、2025(令和7)年4月に江戸川河川事務所を最後に公務員生活36年に終止符を打ちました。

初めて担当した仕事は、1986(昭和61)年の出水に起因する小貝川激特事業の調査・計画・設計です。何も分からぬ新規採用職員に対して、周りの皆さまから温かく適切にご指導をいただきました。社会人になり最初の事務所ということもあり特に印象に残っています。また、江戸川河川事務所では、首都圏外郭放水路



田所百年裕

共和コンクリート工業(株) 元 江戸川河川事務所副所長

インフラツーリズム関係として、自治体と民間企業の方がカウンターパートとなり、どのようなことが来訪者に受け入れていただけるなど一体となって意見交換をしたことが思い出されます。

昨年6月には、これまでと異なる新しい社会に入りスタートをしました。「初心忘るべからず」を胸に邁進してまいりたいと思っています。

年を重ねた体の変化として、近頃つくづく感じることは、記憶力の低下です。十分な睡眠、栄養バランスの取れた食事、定期的な運動、ストレス軽減といった生活習慣の改善が重要といわれています。これからも心身ともに健康な体を維持するには、老化とは考えずにできることから取り組んでいこうと思っています。

これまで出会った皆さま、これから新たに出会う皆さまとの関わりを大事にしたいと思っています。引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。

地域の野球チームで子供たちの育成に励む

昨年4月に退職し、7月から(一財)河川情報センターに勤務しております。

入省からの40年間は本当にあつという間でした。体力には自信があり、元気だけが取り柄でしたが、体も節目なのか、最近、体力の衰えを感じ始めております。とはいえ、ここまでやってこられたのも支えてくれた家族、友人、職場の皆さまのおかげと感謝しております。

昭和61年に建設省関東地方建設局利根川下流工事事務所に電気通信職として採用になり、河川事業、道路事業の電気・通信・情報設備に関わる業務を主に携わってまいりました。特に、京浜工事事務所(現京浜河川事務所)に係長として勤務した際は、「ITバブル」の真っ只中。多摩川の光ケーブルや監視カメラの整備に携われたことは、大変でしたがとても良い思い出です。

菅原宣治

(一財)河川情報センター 元 電気情報技術高度化調整官

現在は、週末、息子たちが所属していたことをきっかけに町田市の少年中学野球クラブチーム「MFB(町田藤の台ベースボール)」でチーム運営や、野球に取り組む子供たちの育成に関わっています。

これからもおいしいお酒を飲めるように、健康第一で、座右の銘「継続は力なり」を胸に、一度きりの人生を楽しみたいと思っております。最後に、会員の皆さまのご健勝をお祈りいたします。



趣味の山登りで今後も健康維持を

今年度、新たに協会会員となりました。よろしくお願いいたします。

私は、昨年の4月に35年間の公務員生活を卒業（早期退職）し、2か月間の浪人生生活を経て、現在は（一財）先端建設技術センターに勤務しています。

公務員生活では、家族や友人に支えられ、職場の皆さまにもたくさん助けられながらなんとかここまで来ることができました。皆さまには感謝してもしきれないくらいです。

振り返ってみると、平成2年に総務部厚生課の採用となり、その後は河川管理業務に長く携わり、退職までに総務系業務に16年7か月、河川管理系業務に18年5か月携わることとなりました。

また、途中本省水管理・国土保全局（当時は河川局でした）にも2年間出向し、さまざまな勉強をさせていただきました。

私が現役時代で一番印象深い出来事としては、京浜河川事務所占用調整課勤務での多摩川下流部の不法係留船対策で、係長

中野昌一

（一財）先端建設技術センター 元主任監査官

時代に「多摩川下流部水面等利用者協議会」の設立に携わり、課長時代には協議会で決定された行政代執行の執行に携わることになったことです。このときはいろいろとつらいこともありましたが、職場の先輩や上司、同僚に助けられながら予定どおり終了することができ、今となっては良い思い出になりました。

休日の過ごし方ですが、妻と学生時代からの趣味である山登りに行ったり、少し長い休みがとれたときには温泉めぐりとセットで遠くの山に遠征したりして、ストレスの解消や体力の維持に努めています。

今後もできるだけ多くの山にチャレンジしつつ、健康の維持に努めていければと思っています。



会員情報報

令和7年12月1日～
50音順・敬称略

新会員をご紹介します

新しく6名の方々が入会されました。これからよろしくお願ひいたします。

氏名	現勤務先
阿部 勇一	(株)ワイ・テック
飯田 久典	飯田土地家屋調査士・行政書士事務所
宮本 孝行	共和コンクリート工業(株)

氏名	現勤務先
元永 秀	
山本 悟司	(一財)日本建設業連合会
渡辺 学	(一財)道路新産業開発機構

寄付のお知らせ この度、関東地域づくり協会会員の瀬戸馨様から、当協会の事業趣旨にご賛同いただき、金20,000円のご寄付を頂きました。瀬戸様に御礼申し上げますとともに、会員の皆さまにご紹介いたします。

お悔やみ申し上げます

謹んで哀悼の意を表します。

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
中村 克己	令和7年4月	道路部 交通対策課長
小塩 熱	令和7年8月	首都国道 出張所長
加藤 幸一	令和7年10月	霞ヶ浦 経理課長

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
坂口 克美	令和7年10月	総務部 契約課長
北野 章	令和7年10月	国土庁 水資源局長
長門 明	令和7年10月	二瀬ダム 管理所長

編集委員

〔関東地域づくり協会〕

有馬正吾
大柴公彦
澤田晋
高橋岩夫
辰野剛志
丸山貴志
〔会員〕
浅古勝久((株)熊谷組)
吉田成人(いであ(株))

感としてはいつも混雑している感じです。
今年の干支は60年に一度めぐつてくる「丙午」です。馬が力強く駆け抜けの姿になぞらえて「躍動感」「力強さ」といった意味合いを持ち、新しい挑戦や物事が前進する縁起の良い年とされています。本年も会員の皆さまご家族のご健康ご多幸を、心よりお祈り申し上げます。

新 年、あけましておめでとうございます。本年も『協会だより』をご愛顧くださいますよう、よろしくお願ひいたします。
私の週末・年末年始の過ごし方はいつも大体変わらず、埼玉県上尾市にあるスーパー銭湯に行くのが恒例となっています。数年前までは早朝割引もありワンコイン（500円）で入れたのですが、最近は価格高騰の折、1,000円近くかかります。スーパー銭湯といえば、客層は私含め年配の方々が多かつたようを感じていたのですが、最近は『鬼滅の刃』『ポケットモンスター(ポケモン)』などのアニメキャラクターとのコラボやグッズ販売などにより、高校生がグループで来るなど、新たな客層の開拓と集客の強化を図っているようです。したがって、価格が上がっているにもかかわらず、実感としてはいつも混雑している感じです。

編集委員会だより

関東の道の駅



道の駅 「富楽里とみやま」

東日本大震災の 経験から、ハード面・ ソフト面を強化

千葉県南房総市の道の駅「富楽里とみやま」は県道184号に面し、富津館山道路(国道127号有料高速道路)のハイウェイオアシスも併設しています。防災・発災時対応のための設備の拡充に力を入れています。

リニューアルで災害対応の設備充実

道の駅「富楽里とみやま」は令和5(2023)年7月に約2年かけたリニューアルが完了。「地震や津波などの大規模災害時にも対応できるよう設備を整え、従業員や利用者の人命を守り、業務を早期に再開・継続できるようBCP(事業継続計画)も定めました」と話すのは、南房総市商工観光部観光プロモーション課交流拠点係の水野哲係長です。

防災の意識が高まったのは、やはり東日本大震災を経験してから。震災が起きた3月は観光客が増える時期で、誘導に時間がかかりました。「災害対応は、ハード面(設備など)とソフト面(マニュアルや人など)両方から検討しなければなりません。従業員の方々がどのように避難指示をすればよいか、帰宅困難になり滞在する場合にどうするか。市と道の駅の指定管理者で協議しました」(水野さん)。

リニューアルでは敷地内に浄化槽・貯水タンクも設置し、災害時に使用可能な非常用トイレを備えました。

災害対応で、電源と通信設備の重要性を実感

開業当初から「富楽里とみやま」で働く池田文子さんは、現在、同施設の支配人および駅長を務めます。令和7年7

月末に起きたカムチャツカ半島付近の地震では内房の沿岸にも津波警報が発令され、観光客や林間学校で訪れていた小中学生が大勢、徒歩や車で道の駅に避難しました。道の駅の2階部分はハイウェイオアシスで、有料高速道路(富津館山道路)に面しています。この構造のため津波の際は施設の1階を閉鎖し、従業員・利用者全員が施設2階と高速道路の駐車場に待機。より大きな津波が予想される場合は、高速道路上まで避難する計画です。

「実際に避難して来られた方に接して分かったのは、皆さんが一番気にされるのは情報の入手だということ。スタッフが逐一、津波や付近の道路の状況などをチェックして問い合わせにお答えしました。情報を入手するための電源や通信設備の重要性を痛感しました」と池田さん。

ハイウェイオアシスの駐車場には蓄電池型超急速EV充電器が設置されており、これは災害時に道の駅施設の緊急電源として使用できることになっています。また、関東地域づくり協会からの助成により、備蓄の食料や水、毛布、簡易トイレ、テントなどを備えた防災倉庫も設置しており、発電機やストーブも保管されています。

富津館山道路沿いの道の駅はここだけ。房総半島の南北を広域につなぐ災害復旧の拠点としても期待されています。



南房総市商工観光部の田中秀典さん(左)と水野哲さん(右)、道の駅富楽里とみやまの池田文子駅長(中央)

ゆったりと座れるフードコートやテラスを新設。授乳室も備え、地元客を中心に、より幅広い年齢層が訪れるようになった



全国「道の駅」連絡会の支援を受け設置した蓄電池型超急速EV充電器(ハイウェイオアシス駐車場に4台)

関東地域づくり協会からの助成金で防災倉庫を設置。食料や水、簡易テント、毛布などが従業員数×3日分備蓄されている



農産物や海産物が豊富にそろう直売所